

柚木玉邨・久太・祥吉郎

柚木家三代の絵画と精神

2021年6月22日（火）～ 8月29日（日）

前期：6月22日（火）～7月25日（日）

後期：7月27日（火）～8月29日（日）

岡山県立美術館2階展示室

※★は音声ガイドあり

※前後期欄が無記載のものは通期展示

番号	作品名	制作年代	材質技法	員数	寸法	所蔵	前後期
柚木玉邨							
G-01	倣石濤山水図	1908（明治41）年	紙本墨画	1幅	94.2×37.1	個人蔵	前期
G-02	芭蕉美人図 ★	1914（大正3）年	絹本着色	1幅	99.2×31.5	個人蔵	前期
G-03	倣董其昌山水図	1916（大正5）年	絹本墨画	1幅	113.1×42.4	個人蔵	後期
G-04	山水図屏風	1921（大正10）年	紙本金地墨画	6曲 1隻	154.0×359.7	岡山県立 美術館	右：後期 左：前期
G-05	青山白雲図	1923（大正12）年	絹本金地墨画	1幅	144.5×43.3	個人蔵	前期
G-06	太湖石図	1927（昭和2）年	紙本墨画	1幅	144.9×39.8	個人蔵	後期
G-07	江村秋色図	1927（昭和2）年	紙本墨画	1幅	147.5×40.0	個人蔵	後期
G-08	松下高士図	1932（昭和7）年	紙本墨画	1幅	144.1×54.9	個人蔵	前期
G-09	米法山水図 ★	1936（昭和11）年	紙本墨画	1幅	132.4×32.8	個人蔵	後期
G-10	西湖図	1937（昭和12）年	絹本着色	1幅	131.2×37.6	個人蔵	後期
G-11	春山小隠図	20世紀前半（昭和時代）	絹本着色	1幅	130.3×43.1	個人蔵	後期
G-12	廬山一角図 ★	1938（昭和13）年	絹本着色	1幅	177.2×52.0	個人蔵	前期
G-13	長春平安図	1941（昭和16）年	絹本着色	1幅	131.7×37.3	個人蔵	後期

柚木久太

H-01	瑩門	1908（明治41）年	油彩・カンヴァス	1点	60.7×40.4	個人蔵	
H-02	鞆津の朝 ★	1911（明治44）年	油彩・カンヴァス	1点	80.5×55.7	個人蔵	
H-03	巴里の冬	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	71.5×58.3	個人蔵	
H-04	婦人像	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	59.5×71.5	個人蔵	
H-05	ヴェトイユの丘 ★	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	44.5×51.6	個人蔵	
H-06	ブルターニュにて	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	38.0×45.5	個人蔵	
H-07	朝霧	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	44.5×37.0	個人蔵	

H-08	モレーの秋	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	45.5×52.0	倉敷市立美術館
H-09	マロニエ紅葉	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	53.0×45.5	個人蔵
H-10	フォンタラピアの朝	1914（大正3）年	油彩・カンヴァス	1点	53.0×45.5	個人蔵
H-11	サンマルタン橋 （トレドの橋）	1914（大正3）年	油彩・カンヴァス	1点	45.5×53.0	個人蔵
H-12	婦人像	1915（大正4）年	油彩・カンヴァス	1点	53.0×45.5	個人蔵
H-13	新聞を読む人	1915（大正4）年	油彩・カンヴァス	1点	45.5×53.0	個人蔵
H-14	春潮（玉島港） ★	1917（大正6）年	油彩・カンヴァス	1点	90.0×194.0	岡山県立玉島高等学校
H-15-01	中華十題 天壇	1924（大正13）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-02	中華十題 雷神廟	1924（大正13）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-03	中華十題 行人	1924（大正13）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-04	中華十題 姑娘	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-05	中華十題 牧童	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-06	中華十題 白藤の花	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-07	中華十題 永日	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-08	中華十題 甘露寺庭	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-09	中華十題 焦山より長江を臨む	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-15-10	中華十題 西湖一角	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	22.0×27.3	個人蔵
H-16	甘露寺	1926（大正15）年	油彩・カンヴァス	1点	45.5×38.0	個人蔵
H-17	軽井沢の雨 ★	1927（昭和2）年	油彩・カンヴァス	1点	45.5×38.0	個人蔵
H-18	春遠し	1938（昭和13）年	油彩・カンヴァス	1点	41.0×53.0	個人蔵
H-19	西爽亭秋意	1949（昭和24）年	油彩・カンヴァス	1点	71.2×89.3	倉敷市立美術館
H-20	閑庭	1950（昭和25）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵
H-21	備南風景	1951（昭和26）年	油彩・カンヴァス	1点	89.8×116.0	岡山県立岡山朝日高等学校
H-22	とあみ	1952（昭和27）年	油彩・カンヴァス	1点	72.7×91.0	個人蔵
H-23	港口	1953（昭和28）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.3	個人蔵
H-24	朝暉	1954（昭和29）年	油彩・カンヴァス	1点	78.5×98.1	倉敷市立美術館

H-25	秋の山	1957（昭和32）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-26	霽後	1958（昭和33）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-27	夏山の朝	1959（昭和34）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-28	池畔（奈良蓬萊池）	1959（昭和34）年	油彩・カンヴァス	1点	60.6×72.7	個人蔵	
H-29	山と空 ★	1960（昭和35）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-30	溪流	1961（昭和36）年	油彩・カンヴァス	1点	59.1×71.6	倉敷市立美術館	
H-31	五月の山	1961（昭和36）年	油彩・カンヴァス	1点	79.2×98.8	個人蔵	
H-32	内海展望	1962（昭和37）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-33	湖雲一帯	1963（昭和38）年	油彩・カンヴァス	1点	91.0×116.7	岡山県立美術館	
H-34	内海雲光る	1966（昭和41）年	油彩・カンヴァス	1点	79.0×98.9	倉敷市立美術館	
H-35	室戸岬	1967（昭和42）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	山陽新聞社	
H-36	南の海	1968（昭和43）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-37	五月晴れ	1968（昭和43）年	油彩・カンヴァス	1点	80.3×100.0	個人蔵	
H-38	初夏の内海	1969（昭和44）年	油彩・カンヴァス	1点	91.0×116.7	個人蔵	
H-39	静物（棚と壺）	1969（昭和44）年	油彩・カンヴァス	1点	72.7×60.6	個人蔵	
H-40	甕江風景	制作年不詳	紙本着色	1幅	40.2×49.1	個人蔵	前期
H-41	西湖	1927（昭和2）年	紙本墨彩	1幅	144.2×39.5	個人蔵	後期
H-42	甘露寺一角	制作年不詳	紙本着色	1幅	43.8×48.0	個人蔵	後期
H-43	桜島朝暉図	制作年不詳	紙本着色	1幅	44.1×47.6	個人蔵	前期
H-44	「甕江のおぢいさん」 原画	1950（昭和25）年	水彩・板に貼った紙	6点 (久太4点、 祥吉郎2点)	68.0×99.5	倉敷市立 玉島図書館	

柚木祥吉郎

S-01	祖父の像	1938（昭和13）年	油彩・カンヴァス	1点	65.2×53.0	個人蔵	
S-02	画家の像	1949（昭和24）年	油彩・カンヴァス	1点	116.7×91.0	個人蔵	
S-03	子 ★	1951（昭和26）年	油彩・カンヴァス	1点	145.5×112.0	個人蔵	
S-04	父の像	1956（昭和31）年	油彩・カンヴァス	1点	65.2×53.0	個人蔵	

S-05	立体派風の父の像	1957（昭和32）年	油彩・カンヴァス	1点	65.2×53.0	個人蔵	
S-06	節句	1964（昭和39）年	油彩・カンヴァス	1点	130.3×162.0	個人蔵	
S-07	回転木馬の見える風景	1973（昭和48）年	油彩・カンヴァス	1点	130.3×162.0	個人蔵	
S-08	高梁川 ★	1981（昭和56）年	油彩・カンヴァス	1点	181.8×227.3	個人蔵	
S-09	風	1983（昭和58）年	油彩・カンヴァス	1点	181.8×227.3	個人蔵	
S-10	遠い花火	1987（昭和62）年	油彩・カンヴァス	1点	181.8×227.3	個人蔵	
S-11	富士に祈る	1996（平成8）年	油彩・カンヴァス	1点	181.8×227.3	個人蔵	
S-12	花と少女	2001（平成13）年	油彩・カンヴァス	1点	60.6×72.7	個人蔵	
S-13	玉島風景（秋）	制作年不詳	紙本着色	1幅	67.7×33.4	個人蔵	前期

岡山の美術 第2期 玉島ゆかりの作家たち

作者	作品名	制作年代	材質技法	員数	寸法	所蔵	前後期
久我小年	柚子図扇面	1917（大正6）年	紙本着色	1枚	15.8× （長幅）52.0 （短幅）25.1	個人蔵	前期
久我小年	魚蝦図扇面	1917（大正6）年	紙本着色	1枚	15.8× （長幅）52.0 （短幅）25.0	個人蔵	後期
柚木沙弥郎	とうもろこし かぜ	2012（平成24）年	型紙・綿	1点	316.0×93.0	本館蔵	
柚木沙弥郎	無題	2012（平成24）年	型紙・綿	1点	198.0×91.5	本館蔵	
満谷国四郎	海の風景	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	50.0×61.2	本館蔵	
満谷国四郎	裸婦	1913（大正2）年	油彩・カンヴァス	1点	72.7×60.6	本館蔵	
満谷国四郎	臨江甘露寺（鎮江）	1924（大正13）年	油彩・カンヴァス	1点	73.1×91.2	本館蔵	
満谷国四郎	スペインの踊り子	制作年不詳	紙本着色	2幅	130.5×33.5	本館蔵	前期
満谷国四郎	麒麟	制作年不詳	紙本墨画	1幅	131.0×31.0	本館蔵	後期
坂田一男	キュビズムの人物像	1925（大正14）年	油彩・カンヴァス	1点	90.0×65.1	本館蔵	
坂田一男	コンポジション	1936（昭和11）年	油彩・カンヴァス	1点	53.0×41.0	個人蔵	
坂田一男	コンポジション	1955（昭和30）年頃	油彩・カンヴァス	1点	40.9×31.8	本館蔵	
小林喜一郎	家族コンポジション	1935（昭和10）年頃	油彩・カンヴァス	1点	145.5×112.0	本館蔵	
柚木祥吉郎	赤い服	1951（昭和26）年	油彩・カンヴァス	1点	64.0×52.0	個人蔵	
瀬本容子	花まつり	2005（平成17）年	テンペラ・板	1点	126.0×102.0	本館蔵	

高橋秀	蒼	2008（平成20）年	アクリル・金箔 ・カンヴァス	1点	125.0×320.0	個人蔵	
中原浩大	無題	1986（昭和61）年	油彩・カンヴァス	1点	195.5×216.0	本館蔵	
大愚良寛	七言絶句「十字街頭乞食了」	18-19世紀（江戸時代）	絹本墨書	1幅	82.5×31.0	本館蔵	前期
大愚良寛	漢詩「籬菊纔残两三枝」	18-19世紀（江戸時代）	紙本墨書	1幅	16.0×43.0	本館蔵	後期
黒田綾山	山水図	1812（文化9）年	絹本着色	1幅	124.9×55.7	個人蔵	前期
黒田綾山	高士漁陰図	1798（寛政10）年	絹本着色	1幅	102.8×41.3	本館蔵	後期
小山富士夫	唐津茶碗（銘 破）	20世紀（昭和時代）	唐津土	1点	(高) 9.3 (口径) 15.6 (底径) 7.2	本館蔵	
小山富士夫	信楽水指（銘 古里）	20世紀（昭和時代）	信楽土	1点	(高) 12.6 (口径) 16.1 (底径) 16.0	本館蔵	
小山富士夫	丹波そば釉平鉢	20世紀（昭和時代）	丹波土	1点	(高) 7.4 (口径) 28.4 (底径) 10.0	本館蔵	
小山富士夫	鉄釉扁壺（四方）	20世紀（昭和時代）	磁土	1点	(高) 20.2 (口径) 6.3 (底径) 14.7	本館蔵	
小山富士夫	刷毛目茶碗（銘白雲）	20世紀（昭和時代）	種子島土・灰釉	1点	(高) 7.0 (口径) 14.5 (底径) 5.7	本館蔵	

柚木家三代の略年譜

西暦	和暦	玉邨	久太	祥吉郎	事項	一般事項・関連事項
1865年	慶応元年	0歳			8月22日、玉邨、柚木正兵衛の子として誕生。のちに柚木玉洲の養子となる。	10月28日、坂田快太郎誕生。
1868年	慶応4／明治元年	3			9月、玉洲のもとに玉邨の弟として久我小年が誕生。のちに小年は小田郡西浜村（現・笠岡市金浦）の久我松韻の養子となる。	1月22日、熊田恰、柚木家西爽亭次の間にて切腹。のち玉島羽黒山に熊田神社が建つ。 9月8日、明治に改元。
1884年	明治17年	19			暮れ、胡鉄梅が玉島に来遊、春帆楼に寓する。玉邨、胡鉄梅に画を習う。	
1885年	明治18年	20	0歳		10月22日、久太、玉島に誕生。父玉邨と母乙枝の1人っ子。幼名を彌（ひさし）、7歳で久太と改名する。	12月22日、内閣制度が成立。
1886年	明治19年	21	1		9月、玉邨、弟小年とともに東京に遊学し、東京農林学校（在学中に東京帝国大学農学科と改称。現・東京大学農学部）に入学。久太は母乙枝と祖父玉洲の下で育てられた。	
1890年	明治23年	25	5		7月25日、玉邨、東京帝国大学農科を卒業し、玉島へ帰る。	7月1日、犬養毅、初当選。 11月29日、第1回帝国議会開会。
1893年	明治26年	28	8		玉邨、第八十六国立銀行（中国銀行の前身）取締役となる。	
1901年	明治34年	36	16		8月11日、玉邨父の玉洲が逝去する。行年76歳。玉邨、岡山県農会幹事兼技師となる。	
1906年	明治39年	41	21		3月、久太、岡山県立岡山中学校（現・岡山県立岡山朝日高等学校）を卒業。 秋、久太、上京して満谷国四郎の門下となる。	11月26日、南満州鉄道が設立される。
1907年	明治40年	42	22		5月、久太、太平洋画会研究所に入り、満谷、中村不折に師事する。	
1908年	明治41年	43	23		春、玉邨、岡山県農会幹事兼技師として朝鮮へ視察に向かい、視察後に岡山県農会幹事兼技師を辞職。この頃より、玉邨、詩書画に打ち込む。	
1909年	明治42年	44	24		6月、久太、太平洋画会第7回展でH-01《瑩門》が初入選する。	
1911年	明治44年	46	26		10月、久太、第5回文部省美術展覧会（文展）にH-02《靱津の朝》が初入選する。 11月11日、久太、神戸から熱田丸でフランスに向かう。同船には師の満谷と同郷の先輩画家・徳永仁臣、与謝野寛（鉄幹）らが横浜から乗船していた。 12月28日、久太、マルセイユを経由してパリに到着。	
1912年	明治45／大正元年	47	27		1月15日、久太、私画塾アカデミー・ジュリアンに入学し、ジャン＝ポール・ローランスに就く。 1月16日、久太、日本人画学生が多くいたシテ・ファルギエールに満谷、徳永とともに入居する。	7月30日、大正に改元。 2月12日、宣統帝退位。清朝滅亡。
1913年	大正2年	48	28		2月24日、久太、アカデミー・ジュリアンを退学する。 4月-8月、久太、フランス、スペイン、イギリスを旅行する。 10月、久太、ダンフェール＝ロシュロー通り75番のアトリエに移る。	
1914年	大正3年	49	29		4月-7月、久太、フランス、スペイン、スイスに旅行する。 8月、久太、フランスが第1次大戦に参戦してパリが危なくなり、正宗得三郎、島崎、金山らとりまージュから、さらにリヨン郊外へ逃れる。	7月28日、第1次世界大戦勃発（～1918年）。
1915年	大正4年	50	30		1月、久太、イタリアからモナコを写生旅行し、2月半ばパリに戻る。 3月、久太、パリを発ち帰国の途につく。 4月10日、久太、北野丸で神戸港に着き、玉島の自宅に帰る。この頃、玉邨、長尾雨山と出会う。	
1916年	大正5年	51	31		5月23日、久太、長女先子が誕生。 7月、久太、東京市滝野川町田端609番地にアトリエつきの家を建て、写山荘と名付ける。	
1918年	大正7年	53	33		5月18日、長尾雨山、西爽亭に来訪する。	11月11日、第1次世界大戦終結。
1919年	大正8年	54	34	0歳	1月13日、祥吉郎、東京・田端に誕生。	9月5日、帝国美術院創設。
1920年	大正9年	55	35	1	6月、久太、熊岡美彦、牧野虎雄、大久保作次郎らとともに20名で新光洋画会を結成し、第1回展を開催する。	

1921年	大正10年	56	36	2	9月11日、玉邨、碧堂とともに中国旅行へ出発。 10月9日、玉邨と碧堂、北京日本公使館にて小幡酉吉の招きで、趙爾巽・顔清世・金城・陳師曾らとの宴席に出席。合作を揮毫する。 11月27日、玉邨と碧堂、上海の王一亭宅で呉昌碩を交えた宴席に出席する。 12月6日、玉邨と碧堂、帰国。	
1922年	大正11年	57	37	3	4月、久太、パリで開催された日本美術展覧会に《水郷の夕》が特別陳列される。 5月、日華聯合絵画展覧会のために来日した金城・陳師曾と京都で再会する。 10月17日、久太、次男沙弥郎が誕生。	1月14日、春陽会創立。 12月30、ソビエト連邦成立。
1923年	大正12年	58	38	4	2月、久太、太平洋画会研究所の教授となる。	9月1日、関東大震災が発生。
1924年	大正13年	59	39	5	5月、久太、大連と奉天で開催された太平洋画会展に出品。桑重儀一らと同展のために出張して講演会などを行ない、その後、6月末まで北京とその周辺を写生旅行する。	
1925年	大正14年	60	40	6	12月、久太、帝展の展覧会委員となる。	
1926年	大正15／昭和元年	61	41	7	3月末、久太、満谷、片岡銀蔵、小野田元興と長崎を発ち、中国江南（上海、蘇州、鎮江、揚州、南京、杭州）を5月12日まで写生旅行する。	12月25日、昭和に改元。
1927年	昭和2年	62	42	8	久太、この年、児島虎次郎、吉田苞らの創立した岡山県最初の絵画研究団体「岡山洋画研究会」に参加する。 12月、玉邨、日本書道作振会で文人画部第一席推薦東日賞を受賞。	11月29日、呉昌碩逝去。 行年83。
1931年	昭和6年	66	46	12	5月、玉邨、坂田快太郎の詩文集『九峰遺稿』に文章を寄せる。 10月、久太、第12回帝展に《内海風景》を無鑑査で出品し、宮内庁の買い上げとなる。	1月20日、坂田快太郎、逝去。行年65。 4月18日、田辺碧堂、逝去。行年66。 6月30日、犬養毅内閣。 9月18日、満州事変始まる。
1932年	昭和7年	67	47	13	10月、久太、帝展審査員となる。	3月1日、満州国建国。 5月15日、犬養毅暗殺（5・15事件） 7月31日、ドイツでナチスが第1党となる。
1934年	昭和9年	69	49	15	3月、久太、玉島に帰省し父母ともに古希を迎えたことを祝う。 4月7日、玉邨妻乙枝が逝去。享年70歳。	6月26日、内藤湖南逝去。 行年67。
1935年	昭和10年	70	50	16	9月、久太、太平洋画会を退会する。	
1937年	昭和12年	72	52	18	3月、久太、満谷国四郎遺作展を中心となって開催し、『満谷翁画譜』を写山荘刊とする。	7月7日、盧溝橋事件。日中戦争始まる。
1938年	昭和13年	73	53	19	8月、祥吉郎、祖父玉邨をモデルとしてS-01《祖父の像》を描く。 玉邨、泰東書道院岡山支部長となる。	4月1日、国家総動員法公布。 7月15日、万博と東京五輪中止が閣議決定。 陸海軍に従軍する美術家が増加。
1939年	昭和14年	74	54	20	8月、久太、朝鮮京城（現・ソウル）から金剛山に向かい写生旅行をする。	9月1日、第2次世界大戦勃発（～1945年）。 9月頃、コンラッド・メイリが妻キク・ヤマタと来日する。
1940年	昭和15年	75	55	21	3月、玉邨、岡山市の金剛荘にて南画展を開催し、続いて久太が個展を開催する。	
1941年	昭和16年	76	56	22	12月、祥吉郎、東京美術学校油画科の藤島武二教室を卒業。 学外ではコンラッド・メイリに師事し、メイリ会に入っていた。	12月8日、日本海軍、真珠湾を攻撃。太平洋戦争始まる。
1942年	昭和17年	77	57	23	2月、祥吉郎、兵役に服す。	4月1日、長尾雨山逝去。 行年77。 アジア・太平洋各地での戦闘が激化。
1943年	昭和18年	78	58	24	10月25日、玉邨、逝去、享年79歳。	
1944年	昭和19年		59	25	2月、久太、玉島に帰郷を決意し、玉島町農会理事に就任する。 7月、久太、「柚木玉邨遺作展」（玉島高等女学校、現・岡山県立玉島高等学校）を開催する。	太平洋各地で日本軍の玉砕起こる。

1945年	昭和20年	60	26	2月、久太、坂田一男らと洋画団体・火虹会を立ち上げる。のちに祥吉郎もここに参加して坂田から指導を受けることになる。 4月、久太、東京大空襲によって田端の写山荘が焼失し、主要な作品や蔵書などをすべて失う。 8月、次男沙弥郎が玉島に復員する。	7月17日、ポツダム会談。 8月6日、広島に原爆投下。 8月9日、長崎に原爆投下。 8月15日、第2次世界大戦終結。 10月24日、国際連合発足。
1946年	昭和21年	61	27	5月、祥吉郎、復員する。 5月23日、久太の妻、壽子逝去。享年57歳。 10月、リウマチを患い病床につく。11月、祥吉郎、堀田知江子と結婚。	11月3日、日本国憲法公布。
1947年	昭和22年	62	28	3月、久太、「満谷国四郎遺作展」（金剛荘画廊、23～30日）を開催する。 9月6日、祥吉郎、長男爽一郎が誕生する。 10月、祥吉郎、第3回日本美術展（日展）で《爽秋》が初入選。	4月17日、地方自治法公布。 5月3日、日本国憲法施行。 6月、玉島文化クラブが発足する。
1948年	昭和23年	63	29	4月、久太、前年に創設された玉島文化クラブの会長に就任し、1961（昭和36）年まで務める。 5月、久太と祥吉郎、「柚木久太、祥吉郎父子油絵展」を岡山金剛荘画廊でを開催する。 9月、祥吉郎、第10回一水会展でS-02《画家の像》が初入選。 10月、久太、高戸薫と再婚する。	朝鮮半島、南北に分断。
1950年	昭和25年	65	31	春、久太と祥吉郎、紙芝居「甕江のおぢいさん」の原画を玉島の画家たちと描く。 この紙芝居は玉島町立図書館開館1周年を記念して企画された演藝会で催された。	6月25日、朝鮮戦争始まる。 特需景気起こる。
1951年	昭和26年	66	32	9月、久太、火虹会主催の「柚木先生小品展」を玉島図書館で開催する。 パリ、サロン・ド・ラール・リーブル展へ《赤い服》を出品。	9月8日、日米安全保障条約。
1952年	昭和27年	67	33	4月、久太、『玉島歴史絵物語 モタエのおじいさん』（玉島文化クラブ編）の発行者となる。 9月、祥吉郎、一水会展でフジエ賞受賞。	玉島町が玉島市となる。
1953年	昭和28年	68	34	4月、「柚木久太、祥吉郎、沙弥郎父子3人展」（3～5日）を岡山市の金剛荘画廊で開催する。 4月、祥吉郎、新設された岡山大学教育学部特設美術科に助教授として着任。 9月、祥吉郎、一水会会員に推挙される。 10月、久太、第9回日展にH-23《港口》を委嘱出品する。祥吉郎もこの年から委嘱出品となる。	
1955年	昭和30年	70	36	3月、久太、和田三造、川島理一郎、大久保作次郎、吉村芳松と新世紀美術協会を創立し、世話人になる。	
1956年	昭和31年	71	37	4月、久太、第8回岡山県文化賞を受賞する。翌月、同受賞祝賀会が玉島図書館で開かれる。	5月28日、坂田一男が66歳で逝去。 12月18日、日本、国際連合加盟。
1957年	昭和32年	72	38	10月、久太と祥吉郎、第8回岡山県美術展覧会の審査員となる。 この年、祥吉郎、日展に不出品、一水会を退会する。	
1958年	昭和33年	73	39	3月、祥吉郎、岡山大学を退職し、翌月、家族ともども上京。	3月、日展運営会が解散し、社団法人日展となる。
1959年	昭和34年	74	40	11月、久太、第17回山陽新聞社賞を受賞する。	6月10日、国立西洋美術館が開館。
1960年	昭和35年	75	41	冬、リウマチが悪化し、病床につく。3月、祥吉郎、玉島に帰る。	安保闘争激化。 12月、ベトナム戦争（～1975年）。
1961年	昭和36年	76	42	9月、祥吉郎、岡山県美術展覧会の審査員となる。 11月、「柚木久太・祥吉郎・沙弥郎父子3人展」が金剛荘美術センターで開催される。	
1963年	昭和38年	78	44	4月、祥吉郎、第40回春陽会展に《遊ぶ魚》で初入選する。 11月、久太、第6回日展で審査員となり、H-33《湖雲一帯》を出品する。	11月22日、ケネディ暗殺。 11月23日、日米初の衛星中継成功。
1964年	昭和39年	79	45	4月、祥吉郎、ノートルダム清心女子大学家政学部児童学科に助教授として着任。 5月、久太、『画人 坂田一男』を玉島文化クラブより刊行し、「坂田一男の思い出」を執筆する。	10月1日、東海道新幹線開業。 10月10日、オリンピック東京大会。
1965年	昭和40年	80	46	4月、祥吉郎、玉島近辺の美術愛好家による赫祥会を結成主宰し、毎月研究会、年2回の発表会を開いて指導にあたる。	

1966年	昭和41年		81	47	5月、祥吉郎、『柚木久太画冊』を装幀・沙弥郎で刊行する。 11月、久太、第9回日展で評議員となり、H-34《内海雲光る》を出品する。	中国で文化大革命（～1976年）。
1967年	昭和42年		82	48	3月、久太、「柚木久太画業60年記念展」が岡山県総合文化センターで開催され、60点を出品する。 11月、久太、第1回倉敷市文化賞を受賞する。	
1968年	昭和43年		83	49	2月、久太、玉島文化協会が結成され顧問となる。 4月、久太、勲四等瑞宝章を受章する。 10月、祥吉郎、16日より翌年2月5日まで1度目の渡欧を果す。デンマーク、オランダ、ベルギー、フランス、イスラエル、ギリシャ、イタリア、オーストリア、西ドイツを歴訪。	
1969年	昭和44年		84	50	8月、久太、第2回三木記念賞を受賞する。	7月20日、アメリカのアポロ11号、月面着陸。
1970年	昭和45年		85	51	春、久太、紺綬褒章を受章する。9月、久太、日展参与となる。 10月28日、久太、老衰のため自宅で逝去。享年85歳。	3月14日、日本万国博覧会（大阪万博。～9月13日）
1972年	昭和47年			53	6月、「柚木久太遺作展」が岡山県総合文化センターで開催され、72点出品される。 7月、祥吉郎、29日より8月25日まで2度目の渡欧。エジプト、イタリア、スペイン、ポルトガル、フランスをまわる。 12月、「柚木久太遺作水墨展」が玉島図書館で開催され、61点出品される。	5月15日、沖縄が本土復帰。 9月29日、日中国交正常化。
1975年	昭和50年			56	2月、祥吉郎、3男の壽が逝去。8月、祥吉郎、14日から9月2日まで3度目の渡欧。オランダ、ベルギー、西ドイツ、オーストリアを歴訪。	
1977年	昭和52年			58	4月、祥吉郎、ノートルダム清心女子大学児童学科長に就任。89（昭和63）年まで務める。	
1980年	昭和55年			61	4月、祥吉郎、春陽会会員に推挙される。以後、隔年で審査にあたる。	9月9日、イラン・イラク戦争。
1982年	昭和57年			63	8月、祥吉郎、5日から17日まで4度目の渡欧を果たし、ロマネスク、ルネサンス研究のためイタリアの小都市を歴訪。	
1985年	昭和60年			66	3月、祥吉郎、岡山県文化賞を受賞。	5月17日、男女雇用機会均等法制定。
1987年	昭和62年			68	5月、祥吉郎、パーキンソン病を発病する。	
1989年	昭和64／平成元年			70	1月、祥吉郎、山陽新聞賞（文化部門）受賞。 3月、祥吉郎、ノートルダム清心女子大学を退職し、同大学名誉教授となる。 この年、祥吉郎、アトリエ新築完成。柚木美術研究所を開設し、後進の指導にあたる。	1月8日、平成に改元。 11月10日、ベルリンの壁崩壊。 12月2日、冷戦終結（マルタ会談）。
1993年	平成5年			74	8月、祥吉郎、5度目の渡欧を果たし、イタリアを巡る。	
1994年	平成6年			75	4月、祥吉郎、勲四等瑞宝章を受章。11月、倉敷市文化賞受賞。	
2005年	平成17年			86	12月3日、祥吉郎、逝去。行年86歳。	